

坂越（坂越湾周辺）地区の歴史文化遺産一覧（1）

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	もの	場	こと	地域の歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説		
						1	2	3	4	5	6			
1	船祭り祭礼用和船(付 船倉1棟)	◎			17 18 19	●						●	大避神社(坂越)の祭礼「坂越の船祭り」において用いられる祭礼用和船、行列をつくる11艘のうち漕船(楫伝馬)、乗船、御座船(神輿船)、警護船(義員船)、歌船の6隻が兵庫県指定有形民俗文化財となっている。	
2	船賃銀定法(付)大西家文書一括	◎			18 27 30	●							幅約181cm、高さ約25.3cmの板に、全国各地への船乗り賃銀定を朱漆書きしたもので、廻船業で栄えた坂越の実態をよく示した資料である。朝、志岐、対馬、加賀、酒田などの地名が書かれ、廻船先までの距離に応じて賃金が定められている。市指定有形文化財。	
3	潮見の地蔵さん	●			19		●					●	もと元文3(1738)年の地蔵があったが、地下に埋設され、新たな丸彫り坐像が安置されている。現在の地蔵は像高60cmを測る。	
4	西の地蔵さん	●			19		●					●	坂越乳下に所在する、像高72cmを測る寛保2(1742)年造立の丸彫り坐像。釈尼妙壽(俗名 大西糸)の25回忌にあたり建立されたもので、かつては西よりの墓地にあったが、明治19(1886)年暴風雨により損傷して現在地に移された。	
5	入江の地蔵さん	●			19		●					●	坂越湯殿町にある、像高46cmの丸彫り地蔵。	
6	おたいさん	●			19		●					●	大黒にある、半肉彫りの石造坐像。「弘法さん」とも言われる。平成10(1998)年に移転。	
7	地蔵(本町)	●			19		●					●	妙道寺裏山の元高川家墓地内にあり、元和4(1618)年に起きた「稲垣焼亡」で死傷した人を鎮めたもの。建立年代不詳。	
8	石仏	●			18 19 36		●					●	自然石を5段に積み上げたもので「高谷の霊石」とも呼ばれ、周辺の地名の始まりという。	
9	八十八ヶ所石仏	●			19		●					●	妙見寺周辺にあり、昭和6(1831)年に宝珠山に安置されたもの。	
10	迎え仏(高谷)	●			19		●					●	高谷共同墓地の迎え仏として安置されている石造の阿弥陀如来像で、天明3(1783)年に造立された丸彫りの立像。北陸から船で持ち帰ったと言われている。	
11	道標	●			18 27		●						かつては高谷駐在所付近にあったが、平成3(1991)年に現在の木戸門跡広場の隅に移築された。高さ94mの凝灰岩製の道標で、「右 大坂 左 城下道」、他面には「右 み那と」とある。	
12	下高谷の道標	●			18 27		●						下高谷の坂越水源地南の県道周尾崎峠の脇に建つ、高さ110cm、18cm角の花崗岩製の道標。「右 さこし道 諸国出船所」、他面には「左 大坂道」とある。平成3(1991)年に現在地に移された。	
13	小倉御前の墓	●			19 32 35		●					●	五輪塔が8基安置されており、南北朝の争いに敗れ坂越に隠棲していた南朝の皇族小倉宮(後鳥羽天皇の皇子)の墓と伝わる。小倉御前は、嘉吉の乱後の山名持豊が坂越に進出するに及んで、こここれまでと坂越の海に入水自殺したといわれ、その場所の海底に「御前岩」と呼ばれる岩があり「藩州赤穂郡志」にも載る。現在はふるさと海岸整備により埋立てられ陸地となっている。(赤穂の昔話)	
14	小倉御前之碑	●			19 32 35		●					●	海岸沿いの敷地に、海からみて御前岩があった方向に建てられている。	
15	児島高德墓	●			19 32 35		●					●	『太平記』によれば、児島高德は新田義貞とともに足利尊氏と戦い、妙見寺で傷を癒し各地を転戦し、晩年坂越で没したという。船岡園中に児島高德の墓と伝えられる五輪塔があるが、五輪塔自体はその特徴から考えて近世初期のものである。	
16	寿隆丸海難死没者墓碑	●			19 27		●					●	妙見寺境内にある。明治19(1886)年建立。高川家船寿隆丸は、和歌山県出雲浦沖で破船し乗り組みのうち竜野清七ら3人が救助されたが7人が死没。一周忌にあたり船主の高川家が建立した。救助にあたった三輪崎の長島松次郎に対し時の県令から渡された感謝状が残っている。	
17	児島贈従三位之碑	●			19		●					●	南北朝の時、南朝に尽くしたという児島高德の碑。海軍大将東郷平八郎が篆額。碑陰記は赤穂藩儒、赤松滄州が記す。児島贈従三位位保存会名誉会員の藤野静庵歌書。大正3(1914)年建立。	
18	山崎善吾君像	●			19		●					●	明治25(1892)年、赤穂・砂子生まれ。港湾埋め立て、工場誘致、水道敷設などに尽力した。村長29年、地方功労者。昭和32(1957)年に像を建立。	
19	奥吉太平翁之墓碑	●			19		●					●	天保8(1837)年生まれ。奥藤家の番頭として主家の繁栄に尽くした。船岡園十三景の設計にも尽力する。大正7(1918)年に82歳で終寿。墓碑は大正7(1918)年に建立。	
20	吾有禪師の墓	●			19		●					●	常楽寺境内にある。吾有禪師は本名を松本和右衛門行邦といい、もと高松藩士で柳斎、玉藻館と号し、剃髪して吾有玄道といった。坂越では妙道寺昌浦庵に住み、多数門人に和歌や絵画、禅道を教えた。文化11(1814)年に讃岐で没するが、門人らが常楽寺境内に墓石を建て、遺品の鉄鉢と十得を葬った。	
21	木村秀蔵君興業碑	●			19		●					●	東秀蔵として明治3(1870)年大阪に生まれ、幼くして母方の木村姓を名乗る。大阪の菓種問屋につとめ、夜学に通って薬剤師免許を得、22歳で独立。明治43(1910)年、坂越に木村製菓所を設立、炭酸マリンケムを製造したほか、昭和4(1929)年に除虫菊を原料に殺虫剤アースを発明した。木村氏の名は商標「地球印」として全国に広まったほか、坂越小学校建築費を寄付するなど地域にも貢献した。昭和20(1945)年没。昭和3(1928)年建立。	
22	木村秀蔵翁之像	●			19		●					●	昭和29(1954)年建立。	
23	船給馬(大避神社)	●			18 19 30		●					●	大避神社の拝殿に奉納されているもので、最古のものは明和6(1769)年のものが見られる。	
24	イヌノキの虫こぶ(ヒョンの実)	●					●						大避神社の境内にあるイヌノキの虫こぶ。虫こぶは虫の出た穴に息を吹き入れるとヒューという音がして笛として遊びに使われる。イヌノキの別名をヒョンノキ、実はヒョンの実ともいい、笛の音に由来する。	
25	生島・生島樹林	◎			17 18 19 31 32 35	●	●					●	坂越湾に浮かぶ周囲2km余りの小島。秦河勝が漂着したと伝わる。島内西側には秦河勝の墓所、神水井戸、東側には浜辺に石鳥居を有し自壁に囲まれた御旅所と、祭礼船を格納する船倉が建っている。古来から神地であり樹木伐採や島内に入るものが禁止されており、その信仰に守られて樹林が生育。国立公園特別保護区にも指定されている。島内の植物は190種あり、海浜植生から森林性のものまであり、国内の植物分布として貴重な樹林。国天然記念物。昔話では、生島の木を伐採した者への祟りが残されている。(赤穂の昔話)	
26	みかんのへた山古墳	◎			17 31		●					●	標高79mの山頂に築かれた直径約38mの円墳は、海上から見ると「みかんのへた」のように見える。5世紀中頃、円形に隆起する地形を利用してつくられた古墳。坂越湾を眺望できる場所につくられていることから、海人の首長墓と考えられる。すぐ脇に2号墳もある。県指定史跡。	
27	黒崎墓所(附)黒崎墓所記・妙道寺過去帳1冊	◎			18 19 27 30	●	●					●	坂越浦海域で遭難や病気などによって客死した人を埋葬した場所(他所三昧)。「妙道寺過去帳」によると、北は出羽、南は薩摩種子島、西は対馬、東は伊豆までの29ヶ国の人を埋葬されている。文化4(1807)年墓域が拡張された。なお境内にある地蔵は、元禄12(1699)年に奥州酒田で死した大西六之助の供養にと、同地の大信寺に持って行ったのが許可が下りず、寺境内に安置されていたのを、文化8(1811)年の拡張改修にあわせて黒崎墓所に安置されたものという。県指定史跡。	
28	妙見寺観音堂	◎			18 19 29 32		●					●	妙見寺は、天平勝宝年間(749～757)に行基が開基し、のち大同元(806)年に空海が中興したと伝わる。観音堂は万治2(1659)年に宝珠山中腹に建立され「円通閣」とも呼ばれたが暴風で大破、享保7(1772)年に再建。近世には珍しい懸造りの建造物として、市指定建造物。	
29	旧坂越浦会所	◎			18		●					●	天保2～3(1831～1832)年に建築。坂越浦会所として使用されたほか、赤穂藩主来浦の際の休憩所にもなった。昭和5(1930)年に大改造され、坂越公会堂となる。平成5～6(1993～1994)年にかけて解体復元整備を行い建築当時の姿に還元、一般公開。市指定建造物。	
30	島井町地蔵堂(付)石造地蔵坐像及び名号石	◎			18 19 35		●					●	建築年代は妙道寺日記に享保6(1721)年とあり、明治25(1892)年の修理以降も、平成9(1997)年まで小規模な修理が幾度か行われたが、建築的価値を示す細部はよく残されていて、市内の同種遺構のなかでは最も古いものに属し、原形をよくとどめている。民衆の庶民信仰をよく示す建造物として貴重な価値がある。市の文化財として指定後の平成24(2012)年に修理。室内に安置されている地蔵は丸彫りの坐像で元禄11(1698)年の造立とされているが、風化が少ない。	
31	小島遺跡	●			34								●	坂越湾の一部を形成する釜ヶ崎半島周辺にある
32	小島古墳群	●			17 34		●						●	坂越湾の一部を形成する釜ヶ崎半島周辺にある古墳群。横穴式石室墳と箱式石棺墓が混じっており、古墳時代後期の築造とされる。平野がない地区の古墳群であることから、漁労を生業とした人々の墳墓と考えられている。
33	生島古墳・生島古墳群(伝秦河勝墓)	●			17 19 31 34		●					●	生島内に築かれている古墳群。このうち1号墳は標高44.2mのところにある生島古墳(伝秦河勝墓)であるが、未調査であり築造年代は明らかではない。ほか生島内には2基の古墳が確認されている。	
34	坂越浦城跡	●			18 29 32 34		●						●	坂越港の北、上ノ山と呼ばれる標高約30mの小丘にあった。城跡はかつて小学校運動場に使われて完全に整地されており、曲輪の跡は残っていない。現在は展望広場となっている。
35	茶臼山城跡	●			18 19 29 34		●						●	坂越湾の北にそびえる標高約130mの茶臼山(宝珠山ともいう)の山頂にあったという。現在はテレビ塔が建ち、整地されていて城跡の遺構は確認できない。

坂越（坂越湾周辺）地区の歴史文化遺産一覧（2）

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	も	場	と	地域	の歴史	文化	赤穂を代表する歴史文化						解説	
								1	2	3	4	5	6		
36	八祖山経塚	●			17	19	29	34					●	●	八祖山の尾根のほぼ中央にある。八祖山は坂越湾と千種川の間にある標高約70mの丘状の山。赤穂高校歴史研究部による発掘調査が行われ出土した土器片から、古墳ではなく経筒を埋めた経塚であることがわかった。
37	下高谷遺跡	●			17	34							●	現在の坂越郵便局建設に伴って兵庫県教育委員会が発掘調査を実施し、古代～中世の集落跡が見つかった。	
38	鍋島古墳	●			17	34							●	坂越湾に浮かぶ鍋島に築かれている古墳。未調査のため詳細は不明。	
39	天満宮跡	●			19	32							●	『播州赤穂郡志』によると、延喜元(901)年に菅原道真が左遷の際、坂越浦を愛し船を数日逗留させたという。天曆年中(947～957)に祀られ、曾根の天満宮と同じであると記されている。	
40	大瀬神社御旅所	●			17	18	19	31	33				●	●	坂越大瀬神社の御旅所は対岸の生島内にある。御旅所は享保4(1719)年12月に再建された、瓦葺で仏教様式の建物。平成16(2004)年に赤穂市市街地景観重要建築物に指定された。隣接する船祭り祭礼用和船船倉には、坂越の船祭で使用される祭礼用和船が格納されている。
41	大瀬神社	●			17	18	19	31	32	33			●	●	祭神は天照皇大神、大瀬大明神(秦河勝)、春日大神。神社創建は不詳であるが、播磨国総社縁起によると養和元(1181)年には祭神大神24座に列せられていたという。本殿・拜殿・神門は江戸時代に再建され、絵馬堂には古絵馬が多く奉納されている。秋の例大祭の船祭は国重要無形民俗文化財に、その祭礼用和船は兵庫県有形民俗文化財に指定。神門の仁王立像・随神坐像や、享保4(1719)年に再建された仏教様式の建物である御旅所などに神仏習合の名残が見られる。
42	荒神社(上高谷)	●			19								●	上高谷集落の背後の山裾にある神社。	
43	荒神社(下高谷)	●			19								●	下高谷集落の背後の山裾にある神社。	
44	稲荷神社(潮見)	●			19								●	潮見集落の背後にある神社。	
45	妙見寺	●			18	19	29						●	●	天平勝宝(749～757)年間頃に行基の創建、大同年中(806～810)の空海の再興と伝わり、盛時には16坊5庵を抱えた大山岳寺院であったが、嘉吉の乱等によって悉く焼失したという。その後、明応3(1494)年に再興されたが、慶応4・明治元(1868)年の神仏分離令によって衰退し、現在に至る。境内には観音堂や様々な弘法大師像や地蔵菩薩像があるほか、周辺の宝珠山には半肉彫りの石造不動明王像がある。
46	妙見寺妙覚院跡	●			18	19							●	●	宝珠山妙見寺の本坊であり、文明17(1485)年の焼失の後、明応3(1494)年に乗併が再建。その後坊舎は明治6(1873)年に坂越初の小学校「松風校」校舎として使用され、小学校校庭整地のため明治41(1908)年に観音堂下に縮小移築された。昭和54(1979)年に老朽化のため大雨で倒壊、現在は天保3(1832)年に再建された山門が残るのみである。
47	妙道寺	●			18	19	35						●	●	浄土真宗本願寺派。享禄5(1532)年に善祐門徒学西が開基した。本尊の阿彌陀仏の木像は寛永9(1632)年に高砂沖で漁網にかかったものを奥藤又次郎が受けて本堂に安置したものと伝わる。山号は光明山。本堂は享保19(1742)年に、山門は宝暦3(1753)年にそれぞれ再建され、鼓楼は寛保2(1742)年に、鐘樓は寛延2(1749)年に建立されたもの。牡蠣殻のついた阿彌陀如来像の言い伝えが残る。(赤穂の昔話)
48	常楽寺	●			18	19	32						●	●	赤穂郡大瀬高屋越前二郎為経の常楽庵にはじまり、その後子孫の高屋生源義義が正中元(1324)年に京都の東福寺の深淵首座に請うて神院となって常楽寺に改号し、よく栄えたという。しかし天文年間(1532-1555)に信徒が改宗したり、慶長年間(1596～1615)の初めに坂越庄三か村を領した浮田安心がみだりに山林田畑を押収したため、衆僧離散して廃寺となった。その後元禄15(1702)年、明和7(1770)年の2度にわたり小堂が再建される。山号は養魚山。
49	海雲寺跡	●			18	19							●	●	宝珠山妙見寺の末寺で、天文年間(1532～1555)に廃寺となったという。山号は養魚山。現在付近に残る井戸は「寺井」と呼ばれ、坂越三井の一つに数えられる。
50	清海寺跡	●			18	19							●	●	位置や開基は不明だが、山号が赤城山であり、旧坂越小学校周辺にあつたと考えられる。
51	長明寺跡	●			18	19							●	●	位置や開基は不明だが、山号は八祖山であり、八祖山にあつたと考えられる。
52	坂越まち並み館	●			18								●	●	大正末期の旧奥藤銀行坂越支店を平成6(1994)年に修繕整備し、坂越地区のまちづくりの拠点施設としたもの。現在は一般公開され、建物内には銀行時代の金庫が現存している。
53	奥藤家・奥藤酒造郷土館 奥藤商事株式会社酒蔵群	●			18								●	●	300年前に築かれた母屋は、西国大名の本陣にもなった大規模な入母屋造り。現存する酒蔵は、寛文年中(1661～1673)の建物といわれ、高さ2m余りの石垣による地下式の構造も保存されている。黒い羽目板に白い塗込窓の酒蔵の一角にある郷土館では、大庄屋や船手庄屋も務めた奥藤家に残る昔の酒造道具、廻船業関係の資料、生活用品などを自由に見学できる。郷土館の開館は昭和61(1986)年。
54	山二家	●			18								●	●	明治8(1873)年に建築された二階建ての町屋で、平成6(1994)年には赤穂市市街地景観重要建築物に指定されている。
55	木戸門跡	●			18	27	30						●	●	江戸時代には坂越浦の治安警護のため坂越大道に木戸門を設置し、番人を配して朝夕に開閉していた。平成7(1995)年にモニュメント整備された。
56	ふるさと海岸	●			18								●	●	昭和40(1965)年代前半の台風により海岸沿いの家屋が大きな被害を受け、その後防潮堤が建設された。平成5(1993)年4月、坂越港ふるさと海岸整備モデル事業(高潮対策事業)として工事着手。平成16(2004)年に護岸、養浜、飛沫防止柵の整備を終え、平成17(2005)年には旧防潮堤の撤去が完了した。
57	とうろん台	●			18								●	●	かつて坂越湾には、神戸海洋気象台からの気象情報に基づき、布製の吹き抜きを柱に掲揚して天候や風向きを知らせる施設があり、「とうろん台」と呼ばれていた。現在は失われたが、モニュメントとして整備されている。
58	鱈魚の小屋跡	●			18								●	●	鱈とはボラの幼魚のこと。坂越では数網を用いた鱈漁が盛んで、江戸時代には鱈産が結成されていた。鱈漁の際、坂越湾を一望できるこの尾根からの鱈の群れ具合を監視した。
59	高瀬舟船着場跡	●			18	27	30						●	●	千種川の南北流通を支えた高瀬舟運路が坂越上高谷に着岸していた場所。内陸部からは製塩に用いる薪のほかに、麦・木炭・こんにやく玉・綿などを、臨海部(下流部)からは塩などの海産物が運ばれた。土手堤の荷扱い所は賑わい「坂越浦の葉文間」とも言われたという。中土手(荷揚げ場)から本通りの土手に渡す石橋は「高瀬の石橋」と親しまれ、昭和60(1985)年にそのうちの3本を跡地に保存し、土手堤に「高瀬舟船着場跡」の記念碑を建立した。
60	船岡園	●			18	19	35						●	●	大正3(1914)年、児島高徳没後50周年にあたり開設された。十三景は高徳の命日である13日にちなんで藤野君山が命題したものである。現在は桜の名所となっている。
61	坂越大道	●			18	19	27	30					●	●	千種川を下りた高瀬舟の船着場と、坂越湾とをつなぐ道で、川の運搬と海の運搬の積み替えを担っていた。途中の島井坂については「二人の旦那はん」という話の舞台となっている。(赤穂の昔話)
62	宝珠山	●			18	19							●	●	山麓に大瀬神社を擁し、中腹には坂越浦城跡、船岡園、妙見寺、八十八ヶ所石仏を含む。散策路が整備され、サクラやツツジが多く植樹されている。山頂からは坂越湾を一望できる。
63	坂越湾	●			17	18	19	27	30				●	●	湾の形状は、瀬戸内海に大きく開いた沈降海岸。古くから港や漁場として栄え、現在は牡蠣養殖が盛ん。
64	鍋島	●			17	18	19	32					●	●	小島漁港の沖合に位置する島。豊臣秀吉が九州に出兵した際、細川幽斎が坂越へ寄港し「塩は早よき程なれや 鍋島 杓子の中へ 入れてみつれは」と詠んだという。
65	弘法の井戸	●			19								●	●	弘法大師によって見つけられたと伝わる。昔は10畳ほどの広さがあり、眼病によいとされた。この水を船で運び、沸かした風呂屋は「大師湯」と呼ばれ親しまれた。「弘法の霊水」とも呼ばれる。
66	げんなみさんの井戸	●			19								●	●	潮見町にあり今も使用されている。「げんなみさん」は「げんさんみ」が訛ったものと推測される。治承4(1180)年に平家追討の軍をおこした摂津源氏の源三位頼政は、宇治川で戦って敗れ自害したが、それに先立って愛妾・菖蒲前を播磨国に逃がしている。追われる身の菖蒲は坂越にたどりつき身を潜め、源氏の世になってから「げんなみさん」と親しまれたと伝わる。
67	荒神の井戸	●			19								●	●	東之町と汐見町の境にあたる荒神谷に沿って上に行くといく荒神の井戸がある。以前は蛭子社、愛宕社が建てられていたが、後に荒神社を祀り、元禄5(1692)年には「東浦荒神敷地森六間、五間」と記録が残る。
68	宮の前の井戸	●			19								●	●	「妙見寺の寺井」という。水を汲み上げた網のあとが井戸の縁に刻み込まれており、共同井戸として長い間坂越の人々の喉をうるおし続けてきたことがわかる。
69	生島の船井	●			19								●	●	生島にあり、船乗りが毎日水をくんでいた井戸で、坂越三井の一つ。
70	大道井	●			18	19							●	●	坂越三井の一つ。文化年間(1804～1818)に掘り替えを行った井筒普請記録によれば屋形もあつたようである。昭和35(1960)年の道路拡幅のため地上より姿を消し、石の井戸枠だけが現地保存されている。

坂越（坂越湾周辺）地区の歴史文化遺産一覧（3）

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	もの	場	こと	地域の歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説
						1	2	3	4	5	6	
71	わゆみさんの井戸	●			19	●	●					寛政の頃、高松藩に松本和右衛門という武士がいた。武芸や学問に秀で、藩の子弟を教えていたが、修行僧として諸国行脚の途中坂越に立ち寄り定住。彼が学問を教えていた場所は妙道寺本堂の右奥で、明治の頃は「わゆみさんの井戸のころ」と呼ばれていた。昭和10(1935)年に水道が敷かれ現在は「わゆみさん」とだけ呼ばれる。
72	常楽寺の井戸	●			19	●	●					下高谷の南側、荒神山の山裾に常楽寺の井戸がある。この井戸水は生活用水としてだけでなく「イボを治す靈験あらたかな霊水」として遠く明石辺りまでも知られていた。現在も地域住民に利用されている。
73	海運寺の寺井	●			19	●	●					霊龜山海雲寺は宝珠山妙見寺の末寺で、天文年間(1532～1555)に廃寺になった。現在付近に残る井戸は「寺井」と呼ばれ、坂越三井の一つ。
74	乳の下の井戸	●			19	●	●					亭(ちん)の下の井戸が訛ったものと伝わる。坂越宇洞龍の原鉄工所内に保存されている。この井戸の山の上に、南朝の皇族小倉御前の月見の亭があったので、「亭の下の井戸」とか「亭の清水」と言われ、水に不自由する坂越の人たちに大切にされてきた。
75	エイゴの井戸	●			19	●	●					井戸は2つあり、豊富な水が尽きることのない「永劫(えいごう)」を意味するものか。特に下の井戸は船の飲料水として利用されていた。
76	梅の木	●			19	●	●					梅の木の地名も場所も今では知る人がほとんどない。雑木林の深い茂みを分け入ると谷川の川底に土砂に埋まった石積み遺構がわずかに確認できる程度である。かつて天満宮が祀られていたという。
77	イサラーの井戸	●			19	●	●					石材を縦方向に積んで築かれた珍しい井戸。
78	神石	●			19		●					大避神社参道の鳥居付近の路傍にあり、坂越三霊石の一つ。この石を動かしてはならず、小便など不潔なことをすると祟るといわれている。なお、坂越三霊石とは、この神石と西之町の天神岩、鳥井の民家に残る石をいう。
79	天神岩	●			19 35		●					かつて浪打り際から9m程先の海中に畳2枚分ぐらいの岩があり、菅原道真が大宰府に左遷された際に坂越に寄港し、この岩に上がって景色を賞したと伝わる(赤穂の昔話)。坂越三霊石の一つで、集会所前に説明板がある。
80	飛びつき岩	●			17 19 31 35		●					聖徳太子の死後、秦河勝が蘇我入鹿の迫害を避けて難波から船出し、皇極天皇3(644)年に坂越生島の東岸に漂着し、その際に生島の「飛びつき岩(鼻)」に上がったと伝わる。
81	坂越漁港	●			18 27		●					市内最大の漁港で、赤穂市全体の年間水揚量778tのうち674tを占める。漁船約66隻(2級18隻、3級48隻)が拠点としており、年間水揚量は674t(うち牡蠣が523t)である。(いずれも平成28年度実績)
82	小島漁港	●			18 27		●					小島は漁村で、明治までは海路か峠越えの道で坂越本村と連絡していた。『赤穂の民俗』には、鯛漁、定置網漁、さし網漁、こぎ網漁、建て網漁、しぼり網漁、はえ縄漁、アナゴ筒籠漁等の漁法が記録されているが、鯛網漁は昭和35(1960)年に、しぼり網漁は戦後廃業とある。
83	大泊	●			17 18 27 35 36	●	●					湾状地形を呈し、良好な港であった。現在も養殖牡蠣筏が波除けのために浮かんでいることが多い。昭和5(1930)年西之町より独立し、字をもって町名とした。菅原道真が船を泊めた伝説が残る。(赤穂の民俗)
84	洞竜	●			17 19 35 36	●	●					菅原道真が筑前に左遷された時、途中ここでしばらく「逗留(洞竜)」したことが地名の由来とする(赤穂の民俗)。南朝の皇族小倉御前が坂越へ来た時、はじめて住んでいた場所と言われもする。
85	潮見	●			18 36	●	●					鯛見の小島があったところで、漁業者が潮の具合や魚の群れ具合を見るのに適した場所であった。潮見の小高いところに立つと、景勝地として知られる飛着や岩堂(岩戸)など坂越湾が一望できる。
86	牡蠣養殖筏	●			18		●					播磨灘における牡蠣養殖は昭和49(1974)年に坂越で始まり、その後、相生市やたつの市に広がった。坂越湾の沈降海岸が海流の緩やかな入り海を形成し、牡蠣養殖の最適条件となっている。様々な自然条件を考慮して移動する牡蠣筏は、坂越の重要な景観となっている。
87	宝珠山散歩道	●			19	●	●					宝珠山山頂から東方方向へ延びる尾根上の登山道。ツツジ等の植栽が整備されており、瀬戸内海の眺望も良い。
88	坂越大泊鉱山跡	●					●					坂越丸山で操業していたロウ石鉱山が、昭和49(1974)年の台風8号による露頭サンプルの結果、高品位な金鉱山であることが判明。昭和50(1975)年から操業開始、昭和59(1984)年に閉山した。
89	坂越小学校跡	●					●					かつての坂越浦城跡が、小学校の運動場として使用されていたもの。
90	海の駅	●			18		●					季節によって旬の魚介類が堪能でき、購入できる。漁業体験も可能。別名:しおさい市場。
91	坂越漁業協同組合	●			18		●					潮見集落前の坂越漁港前にある。牡蠣の養殖等も行っている。
92	坂越の船祭	◎			17 19 31 33	●	●					大避神社の祭礼で、木造船が行列を組んで海上を巡行する大規模な船渡御祭である。10月2日曜に行われる本宮には、神輿船を中心とする11艘の木造船が東之浜から坂越湾に浮かぶ生島の御旅所まで、坂越湾内を巡行する。国指定重要無形民俗文化財。
93	坂越盆踊り	◎			19	●	●					享和3(1803)年の『御役用諸事控』に、踊りを取り締まった記録があるが詳細はわからない。大戦中は中断し、戦後に青年団などによって復活。昭和52(1977)年に「坂越盆踊り保存会」が結成された。なお、寛永16(1639)年に伊予国青島(当時は馬島)に移住した坂越浦の漁師与七郎ら16家族が、ふるさと坂越を偲んで始めたという盆踊りが青島に伝わっている。市指定無形民俗文化財。
94	秦河勝漂着伝説	●			17 31		●					秦河勝は、聖徳太子の重臣として仕えたとされる人物で、蘇我入鹿の迫害を逃れて坂越生島に漂着したとの伝説が残る。秦氏は旧赤穂郡(現在の赤穂市、相生市、上郡町)と関係の深い渡来系氏族であり、古代には郡司職として活動していた。大避神社の祭神は秦河勝であり、神地である生島内には伝説秦河勝墓もある。旧赤穂郡内にはかつて27社の大避神社があったとされる。
95	坂越桜祭り	●			19		●					桜の名所である坂越浦城跡及び船岡園周辺で催される。妙見寺観音堂では無料のお茶会が催され夜間は提灯が点灯し、夜桜が楽しめる。
96	坂越たこ祭り	●					●					地元の新鮮なたこを使った料理のふるまいなどが楽しめる地域の祭。坂越盆踊りも披露される。
97	宝珠山山頂の景観	●			18 19	●	●					山頂からは坂越湾を一望できる。散歩道からの風景も美しく、ツツジなどの植栽が整備されている。
98	瓦葺きのまちなみ	●			18		●					坂越の民家の特徴は、二階建て、本葺きの瓦屋根、平入の切妻で、道路に面する建物前には石垣が築かれ窓格子の板塀をめぐらすことが特徴である。
99	牡蠣養殖風景	●			18		●					坂越では昭和47(1972)年に播磨灘初の牡蠣の養殖を開始した。坂越湾や大泊等の地形を活かし、海流や水温等によって移動する牡蠣筏の風景は、冬の風物詩となっている。
100	つなし寿司	●					●					秋祭りの頃に食べられる郷土食。「つなし」はエシシ科の魚「コノシロ」の別名。体長15センチよりも小さなものを「つなし」と呼び、赤穂では昔から寿司の具材として使われてきた。
101	チリメン、イカナゴ、タコツボ漁	●			18		●					坂越の養殖漁業の発達は戦後のことで、特に牡蠣養殖に関しては比較的历史は新しい。古くから沿岸漁業が盛んで、底曳網や袋待網によるチリメン漁やイカナゴ漁、タコツボを使った漁法がある。